



# 平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月3日

上場会社名 日本ルツボ株式会社  
 コード番号 5355 URL <http://www.rutsubo.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大久保 正志

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 広野 玲緒奈

TEL 03-3443-5551

四半期報告書提出予定日 平成29年8月4日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

## 1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	2,098	13.2	104	75.5	100	269.9	53	
29年3月期第1四半期	1,853	5.9	59	2.4	27	59.2	5	88.3

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 75百万円 ( %) 29年3月期第1四半期 34百万円 ( 168.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	3.89	
29年3月期第1四半期	0.34	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	10,788	3,934	36.5	290.98
29年3月期	9,772	3,940	40.3	291.43

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 3,934百万円 29年3月期 3,940百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		6.00	6.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		0.00		6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,300	13.3	220	48.3	220	51.2	150	40.9	11.10
通期	8,700	11.2	450	19.3	440	8.3	300	3.4	22.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1 社 (社名) 眞保炉材工業株式会社、除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	14,090,400 株	29年3月期	14,090,400 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	572,131 株	29年3月期	572,022 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	13,518,296 株	29年3月期1Q	13,518,715 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	8
(企業結合等関係) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出が増加基調となり企業収益および景況感が改善したことで、緩やかな拡大傾向で推移しました。しかしながら、米国の経済政策運営や新興国の状況など海外経済の動向には不確実性があり、今後国内需要が一巡した後の設備投資の減速懸念など、景気の先行きについては依然として慎重姿勢も見られます。

当社グループを取り巻く関連業界におきましては、主要取引先である自動車関連産業は、新型車の好調等が下支えとなって国内販売台数の前年度比増加が継続するなど、業績は回復傾向にあります。

鉄鋼産業は、国内粗鋼生産量が前年同月比でほぼ横ばいとなる中、製鉄原料の価格上昇に加えて、中国の粗鋼生産が過去最高となるなど、依然として厳しい環境が続いております。

このような状況のなか、当社グループは営業と技術が一体となり、主力製品や新製品の拡販活動を積極的に推進してまいりました。さらに、当第1四半期連結累計期間にS Rホールディングス株式会社の株式を取得したことで、同社とその子会社の眞保炉材工業株式会社が当社の連結対象会社に加わりました。また、6月に眞保炉材工業株式会社がS Rホールディングス株式会社を吸収合併しました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は20億9千8百万円と前年同四半期比13.2%増加いたしました。利益面では、営業利益は1億4百万円（前年同四半期比75.5%増）、経常利益は1億円（前年同四半期比269.9%増）、また親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比大幅に増加し、5千3百万円となりました。

## ①事業の分野別業績

铸造市場向けにおいては、製品の拡販に努めてまいりましたが、売上高は9億3千7百万円（売上高比率44.7%）と前年同四半期比2.2%の微減となりました。

鉄鋼市場向けは、高炉工事の受注増等により、売上高は3億3千2百万円（売上高比率15.8%）と前年同四半期比6.5%増加いたしました。

溶解炉・環境関連市場向けでは、眞保炉材工業株式会社を連結子会社としたことも寄与し、売上高は5億9千3百万円（売上高比率28.3%）と前年同四半期比52.4%増加いたしました。

海外市場向けは、アジア地域を中心に販売が増加し、売上高は1億3千2百万円（売上高比率6.3%）と前年同四半期比20.6%増加いたしました。

不動産事業は、当期より大阪貸倉庫の賃貸を開始したこともあり、売上高1億4百万円（売上高比率5.0%）と前年同四半期比22.1%増加いたしました。

## ②事業の種類別セグメントの業績

種類別セグメントの売上高は、耐火物事業の売上高は13億7千4百万円（売上高比率65.4%）と前年同四半期比0.7%増加し、営業利益は8千2百万円となりました。溶解炉・環境関連市場向けのエンジニアリング事業の売上高は6億2千万円（売上高比率29.6%）と前年同四半期比53.2%増加し、営業利益は9千万円となりました。不動産事業の売上高は1億4百万円（売上高比率5.0%）と前年同四半期比22.1%増加し、営業利益は6千1百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末比6億5千2百万円（11.2%）増加し、64億6千9百万円となりました。主として、現金及び預金の増加によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末比3億6千4百万円（9.2%）増加し、43億2千万円となりました。主として、眞保炉材工業株式会社の子会社化に伴うのれんの発生によるものです。

これにより、当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比10億1千6百万円（10.4%）増加し、107億8千8百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末比6億1千3百万円（18.1%）増加し、40億6百万円となりました。主として、短期借入金の増加によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末比4億9百万円（16.8%）増加し、28億4千9百万円となりました。主として、長期借入金の増加によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末比6百万円（0.2%）減少し、39億3千4百万円となりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は36.5%（前連結会計年度末は40.3%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月11日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

なお、業績予想を見直す必要が生じた場合は、速やかに開示する予定です。